

興業工科大学校友会誌

昭和三十三年

第十四号

日本大学



工科技友会

日本大学工科校友会

編集委員

委員長	筒井助幸	助幸
委員幹事	亀井幸次	幸次
委員	伊藤真治	真治
"	大内順	順
"	穴沢一郎	一郎
"	宮川育郎	育郎
"	木下茂徳	茂徳

1958

VOL. 4 No. 14

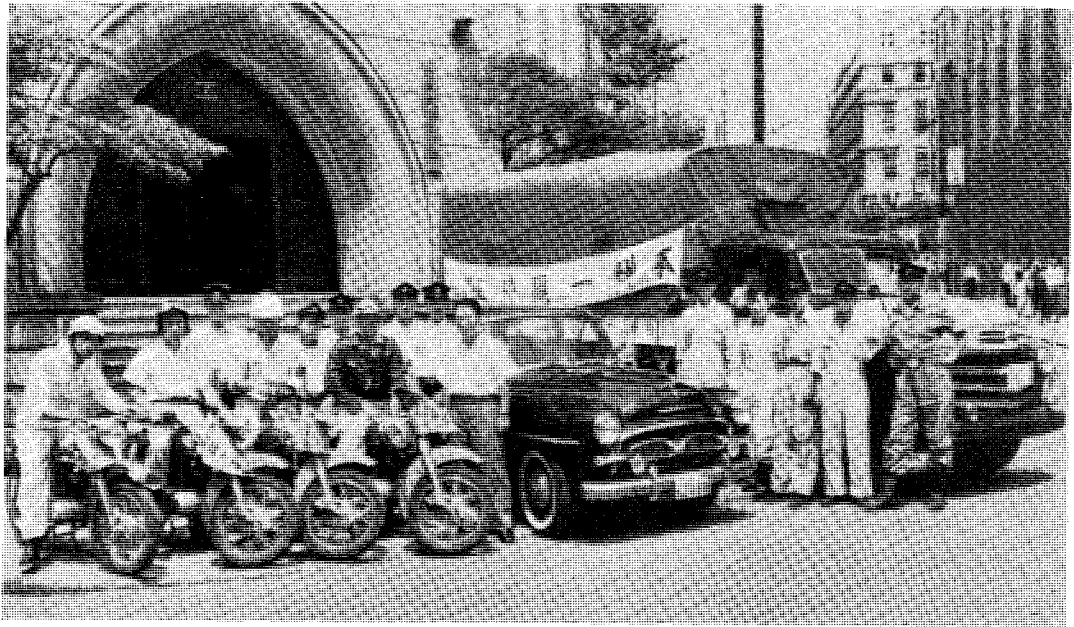
日本大学工科校友会誌

目次

永田新総長を語る……………日本大学理事会…会頭…古田重二良…………	3
古田会頭私立大学審議会会長に決る……………	4
わが理工学部を語る(本学に入学を望む学徒のために)……………	5
再び欧州を尋ねて(飛びある記2報)……………木村秀政…………	17
第6回全国高等学校設計競技会の報告……………	25
学生会員記事	
自動車本州一周キャラバン……………理工学部自動車部…………	26
秋の祭典 大学祭 理工学部学内展示……………	38
昭和33年 教員就職者名簿……………	39
昭和34年度 日本大学入学試験要項……………	40

特待生選抜試験は、2月25日—27日に行われる。

受験料不要、出願手続その他詳細は「特待生選抜試験要項」を参照されたい。



8月8日 12時学校前出発左より寺戸、若松、依田、三木、間中、中村、津賀、土田、横田、景山先生  
齋藤、本間（トラックの中）石居、八十、館山、白井の各隊員

行くと、先発隊のトラック部隊から、大崎の館山君の家の前で、トラックのリアシャフトが折れたと電話があった。これで後続部隊が8日早朝出発するのぞみがうすくなった。しかし出来るだけ早く修理して出発しなければならない。部品屋を11時頃たき起してやっとスペアをさがし出す。12時には修理完了、すぐ出発!と思ったが又も故障箇所発見。ブレーキパイプのジョイントからブレーキオイルがもっていた為に出発を遅らす事に決定午前2時すぎ、全部員橋本さん宅迄引返し、当日は解散、景山先生の家の方に伝達事項をかい、その日は寝る事にした。午前3時予定通り運べばあと3時間後に出発だ。

#### 8月8日（金）晴

予定より遅れる事6時間、正午学校前にて記念撮影をする。景山先生を隊長に総員15名（寺戸、若松、間中、依田、石居、本間、白井、横田、八十、以上三年、館山、三木、中村、津賀、土田、以上二年齋藤、四年）先発隊のトラックも事故の為、そろって出発する。

鶴見近辺迄来た時三木君がちょっとした不注意から見送に来てくれたウエボンと接触、交叉点のどまん中へ転倒。たいした事はなかったが事故第1号!10分後に出発延々と?隊列をつくってワンマン道路へ。ここで先輩の

ウエボンとお別れ。又橋本さんが昨日の故障を心配して、ダットサンでおいかけて来てくれた。箱根の上迄ついて来られるそうで我々一同頭の下る思いがした。3時頃小田原にて昼食をとる。ここから第一回目の燃費テストオートバイの1号車（津賀）と2号車（若松）でもって箱根でテストをする。3号車（寺戸）と、三木君と小田原で変った4号車（石居）が彼等の女房役としてガソリンのきれる所迄ついていった。

2号車は箱根頂上で、1号車は三島入口でそれぞれガス欠、ここでトラックとクラウンを1時間ばかりまった。なにしろトラックには引越荷物が一杯なのであまりスピードは出せない。8時に三島入口を出発して、第一日目の宿泊予定地である静岡に向う。途中富士にてトラックが定期便と接触、右フェンダーにだいぶんきずをうけてしまった。これは相手の追越不注意からきずをつけられてしまったのだが、全隊員血相を変えて相手の運ちゃんをどなりつけたら相手はまっさをな顔をしてあやまったような一場面もあった。まあ事故も運行にはたいした影響もなくそのまま静岡へ向う。10時頃石居隊員と依田隊員の家に着く、ここで一泊。前途遼遠。

#### 8月9日（土）晴

午前7時トラック部隊が引越の為岐阜迄先発する。東